

身近の自然を楽しむ」番外2 身近の自然を楽しむ 秋の野川の自然

Enjoy the surrounding nature: Nature around the Nogawa river in autumn

2022/10/27

吉野輝雄

本誌シリーズの番外1でお知らせした「野川野外学習」が10/23に実施されました。今号は、本番で見た野川の自然（地形、動植物）の写真アルバムをお届けします。

当日は、雨天が多く不安定であった前の週の天気ウソのように白い薄雲が浮かぶ青空が朝から一日中続いた、まさに最高の日和であった。実行委員が野川公園に集合、一日の予定と注意事項を確認し、名札・手製のバッジをつけて自己紹介。青空を仰ぎながら昼食を済ませ本番に入った（プログラムの様子は別途関係者内で共有することになっているのでここでは割愛する）。



実は私は、集合前に、野川自然観察園に入り、秋半ばの草花の写真を撮った（下見9/17とはすっかり変わっていた）。まず、2種のヨメナ（嫁菜）が目に入った。さらに、赤紫色の秋明菊（八重咲き）、黄色のオニタビラコ（鬼田平子）、ホトトギス（杜鵑草）が野生種らしく集合して咲いていた。開花時が過ぎつつあるノアザミ（野薊）にも出会えた。ミゾソバ（溝蕎麦）は、野川の岸辺に群生していた（花形をよく見ると星のようであった）。

秋半ばだったので、草木が実を付けていた。子どもの頃つまんで食べた赤いガマズミの実と林の中で出会えて嬉しかった。ヤブラン（藪蘭）の実が緑から青色に変わる前であった。赤い実をたくさん付けたイイギリ（飯桐）の大木が湧水広場に立っていた。訪れた水車小屋の庭に「禅寺丸」という日本最古の甘柿の木があった（食べてみたかった…）。そして、ラグビーボール形の赤いカラスウリ（烏瓜）（実の中の大仏の形の種を子どもたちに見せたかった）。

野川は、国分寺から多摩川まで20km続く河岸段丘（高さ10mの崖線／がいせん／通称・ハケ）沿に流れる川だが、その水源は崖線に沿って絶えず流れ出る湧水だ。その一つを観察し、流れ出る小川に子どもたちが入って湧水を体感しながら水生動物を探した。すると、サワガニ（脱皮直後と成長後）、石の下からはカワゲラ、ウスバカゲロウという清流である事を示す（環境指標生物）が見つかった。

都市河川でありながら野川の自然は生きていることが確かめられたワクワク「自然学習プログラム」であった、と言えそうだ。